看護計画を重視したクリニカルパスとカンファレンスに対する看護師の意識を調査し課題を明らかにする

福岡県　医療法人　井口野間病院　〇牛根嘉孝（Ns）

松尾理恵（Ns）

砥綿拓男（Ns）

**【目的】**

当病棟は2017年に認知症クリニカルパス（パス）、中間カンファレンス（カンファ）、プライマリーナーシングが導入されたが、前回の研究「認知症パスを活用する取り組み」でパスが活用されていない現状が分かった。今回、項目を減らし、看護計画を重視したパスを導入する事と、看護計画の評価が可能なカンファの充実を図る事で、看護師の意識変化を調査し課題を明らかにする。

**【方法】**

研究参加者には目的、方法、参加拒否による不利益はない事、個人情報保護について文書と口頭で説明を行い同意を得た。利益相反はない。2018.11月より認知症パスから全患者使用パスへ変更し、項目は看護計画、せん妄・ＡＤＬ・褥瘡評価など治療上最低限のものとした。又、中間カンファでアウトカム評価を行うにあたり看護計画も発表・評価できるよう啓蒙を行った。検証として研究期間中当病棟に勤務した看護師１３名を対象とした意識調査アンケートを2018.11月、2019.4月、7月に実施し意識変化を調査した。

**【結果】**

意識調査の結果33％の看護師が退院まで複雑さを感じない方向へ転じた。又、各種評価も44％強化され、連携の頻度も18％増加したとの結果であった。初回のアンケート記述には、バリアンス発生時にも問題が発生しにくくなった記述があったが、最終のアンケート記述には、退院までの流れがより明確になりやる事が増えた記述があった。

**【考察】**

この結果は、専任看護師が患者様・ご家族を援助するための個別性のある看護計画の作成に時間をさく事ができたからと考える。又、退院までの複雑さを感じる看護師が減少した理由は、パスがシンプルになりバリアンスに強くなったためと考える。一方4月～7月に微増した理由はプライマリーナーシングとしての仕事を自覚したからと考える。

**【結論】**

この試みは、看護師の意識を変化させ、プライマリーナーシングの機能を高める事にも繋がった。今後は、看護計画を重視しながらプライマリーナーシングの業務を分かりやすくする必要がある。